

汚染水対策スケジュール (1/2)

分野	括り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月以降	備考		
				14	21	28	5	12	19	26	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			下	
●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022~2024年度)	建屋内滞留水	【1~4号機 滞留水移送装置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 (予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転	1~4号機滞留水移送装置設置 運転																					(継続運転)	2号機 原子炉建屋滞留水位低下(T.P.-2800目録) 実施中 (2021/10/12~) 【12/23時点水位 約T.P.-2500】 ※監視パラメータ異常なし			
		【α核種除去設備検討】	設計・検討																						(2023年度上期 工事完了予定)			
		【1~4号機 T/B床面スラッジ等の回収方法検討】	設計・検討																							(2023年度 設計完了予定)		
		【滞留水処理 代替タンク設計】	設計・検討																							(2023年度下期 工事完了予定)		
		【プロセス主建屋・高温処理建屋ゼオライト土質の検討】	設計・検討																							(2023年度上期 設計完了予定)	プロセス主建屋の地下階線量調査実施 (2021/10~)	
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)																						(継続運転)	処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 既設多核種除去設備 除去性能確認に係る実施計画変更 (2021/11/5認可) 増設多核種除去設備 前処理設備改造に係る実施計画変更申請 (2021/7/27)		
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	処理運転																							(継続運転)	サブドレン汲み上げ、運用開始 (2015.9.3~) 排水開始 (2015.9.14~)	
		【6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧工事着手 (2020/9/7~) ・配管設置: 約1900/約1900m ・中継タンク設置: 2/2基 ・ポンプ・水位計設置: 13/13箇所 ・試験 (各設備設置後): 一式 (2022/1実施予定)	現場作業																							(2022年3月 運転開始予定)	2021年2月18日 5・6号機サブドレン集水設備復旧の実施計画変更認可 (原規規発第2102184号)	
		【地下水バイパス設備】 (実績) (予定) ・運転 ・運転	運転																								(継続運転)	
		【セシウム吸着装置】 【第二セシウム吸着装置】 【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	処理運転																								(継続運転)	2021年1月29日 吸着塔の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可 (原規規発第2101291号) サブドレン浄化設備天ドラレーン不具合事象に伴い、以下、使用前検査工程検討中。 使用前検査予定月→2021年12月(第三セシウム吸着装置-2号)- 2022年1月(第三セシウム吸着装置-3号)- 2022年1月(第二セシウム吸着装置-2号)- 2022年2月(第三セシウム吸着装置-3号)-
陸側遮水壁	(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全環展開完了	維持管理運転 (北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																							(継続運転)			
フェーシング (陸側遮水壁内エリア)	【凍土壁内フェーシング (全6万m ²)】 (予定) 4号機タービン建屋東側	現場作業	4号機タービン建屋東側																						(2022年2月 工事完了予定)	4号機タービン建屋東側: 2021年4月7日開始		
3号機R/B 燃料取出用カバー 雨水対策 (HPC型水位上昇対応)	(実績) ・2021年8月6日 仮設雨樋設置完了 (予定) ・2022年2月 雨樋本設化完了予定	現場作業	雨水排水先変更 (サブドレンNo.34付近の地表面に排水)																						(2022年2月 工事完了予定)	3号機R/B他雨樋設置工事その2 計画中		

分野	括弧	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	11月							12月							1月			2月			3月			4月			5月			6月以降	備考
				14	21	28	5	12	19	26	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
●タンク関連		H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	モニタリング																												(継続実施)		
		タンク解体	(実績・予定) ・Eエリアフランジタンク解体工事 : 49基解体予定 (実績) 解体基数 46基/49基	Eエリアフランジタンク解体工事																												(2022年4月 工事完了予定)*	2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について (実施計画変更認可) ※: 残水回収中の2基を除く	
		タンク設置	(実績・予定) ・G4北エリア溶接タンク設置工事 : 6基設置予定 (実績) 設置基数 4基/6基 ・G5エリア溶接タンク設置工事 : 17基設置予定 (実績) 設置基数 4基/17基	G4北エリア溶接タンク設置工事 G5エリア溶接タンク設置工事																												(2022年8月 工事完了予定) (2022年8月 工事完了予定)	2021年11月5日 中低濃度タンク (G4 北、G5 エリア) の設置等の実施計画変更認可 (原規規発第2111054号) ※工程前しを核対中	
●溜まり水対策		溜まり水対策	【構内溜まり水の除去】																													(継続実施)	年1回、溜まり水の点検を実施	
●自然災害対策		津波対策	○日本海津波対策 ・日本海津波対策防波堤設置 (実績・予定) 試験施工 本体構築工事	現場調査・測量・試験施工・本体構築工事																												(2024年3月 工事完了予定)	1-4号機側: 2024年3月完了予定 現場着手: 2021/06/21開始 テールアルメ工事: 2021年9月14日作業開始 アッシュクリート打設: 2021年10月15日作業開始	
		津波対策	○3.11津波対策 ・建屋開口部閉止 (実績) 閉止箇所数 125箇所/127箇所 (予定) 外部開口閉塞作業 継続実施	【区分⑤】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B等																												(2022年3月 工事完了予定)	【区分①②】1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了 【区分③】2、3R/B外部のハッチ等 (2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分④】1~3R/B等 (2019年9月~2020年11月、全16箇所完了) 【区分⑤】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B (2020年3月~2022年3月、22箇所/24箇所完了)	
		津波対策	○3.11津波対策 ・メガフロート移設【12.8時点】 (実績) 着底マウンド造成:100%、ハラスト水処 理:100%。 内部除染作業:100% メガフロート移設・仮着底: 100% 内部充填作業: 100% 護岸ブロック製造: 100% 掘削: 100% 築込工: 100% ブロック基礎被覆: 100% 上部盛土工: 100% 上部コンクリート工: 100% 港湾ヤード整備: 26%	護岸工事																												(2022年 2月 工事完了予定)	番番マウンド造成: 2019年5月20日開始、2020年2月7日完了 ハラスト水処理: 2019年5月28日開始、2020年2月20日完了 内部除染: 2019年7月16日開始、2020年2月26日完了 メガフロート移設・仮着底: 2020年3月4日完了 内部充填: 2020年4月3日開始、8月3日完了 護岸ブロック掘削: 2020年10月2日開始、2021年2月4日完了 裏込工: 2021年1月16日開始、2021年3月24日完了 ブロック基礎被覆: 2021年3月25日開始、2021年6月8日完了 上部盛土工: 2021年4月19日開始、2021年8月3日完了 上部コンクリート工: 2021年6月16日開始、2021年11月22日完了 港湾ヤード整備: 2021年10月18日開始、2022年2月25日 完了目標 ※2月13日の地震による影響を福島県と協議し、追加申請を実施予定。	
	豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設 (実績) (12月20日時点) 準備工事 完了 立坑構築工 (南発達立坑部) 75% 立坑構築工 (上流側到達立坑部) 80% 立坑構築工 (下流側到達立坑部) 60% 立坑構築工 (小口径推進部) 40% トンネル工 (下流側機械掘進工) 80% 推進管掘削 (下流側) 221,284本 (約540m/約690m)	立坑構築工事 (南発達立坑部、下流側到達立坑部、上流側到達立坑部、小口径推進部) トンネル工事 (下流側~2022.1)																												(2022年 8月 工事完了予定)	準備工事 (南発達立坑部ヤード整備): 2021年2月25日開始 南発達立坑部: 2021/03/06施工開始 下流側到達立坑部: 2021/03/22準備開始、7月16日施工開始 上流側到達立坑部: 2021/04/05施工開始 トンネル工事: 2021/07/29開始、2021/09/06掘進作業開始、 2021/09/16初期掘進開始、2021/9/28本掘進開始 2021/01下旬に下流側掘進完了予定 2021/03に上流側掘進開始予定		

水処理設備の運転状況, 運転計画
(2021年12月17日~2022年1月20日)

2022年1月7日
東京電力ホールディングス株式会社

既設多核種除去設備

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)	
A	点検停止																																			
B	点検停止																																			
C	点検停止																																			

増設多核種除去設備

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)	
A	点検停止																																			
B																																				
C																																				

高性能多核種除去設備

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)	
A	計画停止																																			

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)	
SARRY																																				
SARRY2																																				
KURION	計画停止 (滞留水の状況に応じて運転を計画, 実施)																																			

※ 現場状況を踏まえて運転するため, 計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2021年12月17日～2022年1月6日)

2022年1月7日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位				タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位			
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス主建屋	高温焼却炉建屋	サイトバンカ建屋
			HPCI室	トーラス室												
12月17日	-2081	-2623	-2021	-2001										-513	239	2702
12月18日	-2067	-2628	-2015	-2041										-571	239	2704
12月19日	-2063	-2593	-2017	-2041										-642	239	2702
12月20日	-2064	-2588	-2019	-2038										-712	238	2702
12月21日	-2084	-2607	-2022	-2026										-660	238	2702
12月22日	-2085	-2597	-2028	-2024										-572	238	2703
12月23日	-2076	-2599	-2031	-2047										-508	239	2702
12月24日	-2069	-2623	-2035	-2045										-444	239	2702
12月25日	-2066	-2595	-2036	-2041										-458	238	2702
12月26日	-2063	-2623	-2040	-1987										-538	238	2702
12月27日	-2061	-2590	-2042	-2048										-614	238	2701
12月28日	-2060	-2618	-2042	-2047										-680	237	2701
12月29日	-2061	-2592	-2045	-2047										-759	237	2701
12月30日	-2079	-2593	-2045	-2045										-826	238	2701
12月31日	-2081	-2613	-2047	-2041										-872	238	2701
1月1日	-2084	-2606	-2049	-2013										-812	238	2701
1月2日	-2080	-2586	-2049	-2050										-752	237	2701
1月3日	-2076	-2606	-2050	-2048										-733	370	2701
1月4日	-2076	-2627	-2050	-2047										-731	544	2701
1月5日	-2078	-2579	-2052	-2045										-730	702	2701
1月6日	-2073	-2599	-2052	-2045										-742	905	2701
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796	-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	-	-

備考欄

- ※ T.P.表記 (単位:mm)
- ※ 5時時点の水位
- ※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了(2017年3月)
- ※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2019年3月)
- ※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)
- ※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2～4号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2～4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送したことがあり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。
なお、当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)内の建屋滞留水と切り離されており、放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。

各エリア別タンク一覧

1~4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基数、水位、貯蔵量、実容量集約日 2021年12月16日

Table with columns: 罐エリア, 基数, 1基あたり容量(公称), タンク型, 貯蔵水, H水位, H容量/基, 0%以下貯蔵量, 0%以上貯蔵量, 実容量, 水位管理 (水位, スロッシング, HANN, HHANN), 放射能濃度 (Cs-134, Cs-137, Co-60, Mn-54, Sb-125, Ru-106, Sr-90), 測定時期, 概略使用開始時期. Rows include areas B, B南, C, D, E, G1, G1南, G3東, G3西, G3北, G4南, G6, G7, H1, H1東, H2, H3, H4北, H4南, H5, H6(I), H6(II), H8北, H8南, J1, J2, J3, J4, J5, J6, J7, J8, J9, K1北, K1南, K2, K3, K4, and 多核種除去設備.

赤字はアウトオブサービス済の基数
下線部は今回の変更箇所
※1 濃縮塩水/S-処理水等を貯留した実績あり(G3西及びJ1の一部)
※2 S-処理水等を貯蔵した実績のあるタンクを再利用したものを含む 再利用した基数 G3西・30、G3北・6、H8南・8、J1・8、K1南・10、K2・26
※3 多核種除去設備処理水(ALPS処理水等)の放射能濃度について、当社「処理水ポータルサイト」に掲載のデータを参照(3ヶ月毎にデータ更新)
処理水ポータルサイトのURLは以下のとおりです。4ページ中段にある「貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる」をクリックすると、分析結果が表示されます。
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/
※4 多核種除去設備、高性能多核種除去設備、増設多核種除去設備のサンプルタンクは貯留用タンクではなく水の入れ替わりがあることから、分析対象外とする。

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.12.16時点）

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs-134: <1.0E1 Cs-137: 2.1E1 全β: 2.6E1 H-3: 1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs-134: 1.1E1 Cs-137: 4.0E1 全β: 4.1E1 H-3: 1.1E2 (2015.11.2)	
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs-134: 200~340 Cs-137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr-90: 10~20 H-3: ND(<100) (2015.1.16)	
2	5,6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5,6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約8,900 (2021.9時点) 約8,700 (2021.12時点)	Cs-134: 2.1E0 Cs-137: 6.3E1 (2021.10.13) 2.3E0 7.0E1 (2021.11.10)	5・6号建屋滞留水・RO処理水を貯留
3	5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約6,300 (2021.9時点) 約4,100 (2021.12時点)	Cs-134: 7.7 Cs-137: 4.3E1 (2016.10.3)	5・6号建屋滞留水を貯留
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs-137: 2.0E3~1.6E7 Sr-90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)	
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65※1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs-134: 1.7E4 Cs-137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1: 全5タンクの水量を実測して算出
9	5、6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	5号機スクリーン近傍	約550 約0 (2021.12.9)	Cs-134: ND Cs-137: 3.4E0 (2016.10.5)	水抜き済 今後充填予定
		・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs-134: ND Cs-137: 3.7E0 (2016.10.5)	
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 3.0E0 Cs-137: 1.9E1 (2016.10.3)	
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 1.5E0 Cs-137: 1.1E1 (2016.10.3)	
10	1~4号機T/B屋根	・1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs-134: 2.1E1 Cs-137: 6.2E2 (2021.9.21) 全β: 4.4E1 (2020.7.29)	
		・2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs-134: ND Cs-137: 4.7E1 (2021.9.21) 全β: 8.9E0 (2020.7.29)	
11	1号CSTタンク(溶接タンク)	・1号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約740 (2016.10.26)	Cs-134: 2.9E+4 Cs-137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)	RO処理水を貯留

汚染水等構内溜まり水の状況 (2021.12.16時点)

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,900 (2021.9.15)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 H-3: 1.5E5 1.9E5 Sr-90: ND ND (2021.9.7) (2021.10.5) 【2号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.6E+02 Cs-137: 1.7E+03 (2018.12.14) 全β: 1.5E+03 (2018.12.19)	2020.3.18より1~3号機炉注 水源としての運用開始
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,970 (2021.9.15)	【3号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.9E+2 Cs-137: 3.5E+3 全β: 6.3E+3 H-3: 7.5E+5 (2020.7.16)	RO処理水を貯留 1~3号機炉注水源
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 8.3E3 7.9E3 (2021.10.5) (2021.12.7) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 7.3E3 8.5E3 (2021.10.6) (2021.12.8) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 9.7E3 8.9E3 (2021.10.8) (2021.12.10) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未 満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
22	1~4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト (2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約4~170 (2020.12)	Cs-134: ND~3.2E2 Cs-137: 9.6E1~7.6E3 全β: 9.6E1~8.0E3 H-3: 1.0E2~6.5E3 (2020.12)	量及び放射性物質濃度の 内訳は添付資料(1)「2018年 度トレンチ等内溜まり水調 査結果一覧」を参照
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1,600 (2020.12)	Cs-134: ND Cs-137: 8.7E1 全β: 1.0E2 H-3: ND (2020.12.18)	
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約400 (2020.12)	Cs-134: ND Cs-137: 4.8E1 全β: 7.3E1 (2020.12.21)	
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2020.12)	Cs-134: 4.8E1 Cs-137: 4.0E2 全β: 4.4E2 H-3: ND (2017.10)	
28	1~4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防炎用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1~4号機周辺	約1~830 (2018.12)	Cs-134: ND~2.3E1 Cs-137: 7.0E0~2.7E2 全β: 5.4E1~7.2E2 H-3: ND~1.7E3 (2018.11~2019.1)	量及び放射性物質濃度の 内訳は添付資料(2)「2018年 度トレンチ等内溜まり水調 査結果一覧」を参照
29	1~4号機サブドレンビット No.15,16(未復旧ビット)	・サブドレンビットNo.15,16	1~4号機周辺 「未復旧」	約20	【No.16】 Cs-134: 3.1E4 1.9E4 Cs-137: 8.8E5 5.8E5 全β: 1.1E6 8.3E5 H-3: 8.3E3 9.5E2 (2021.9.10) (2021.11.5)	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2021.12.16時点)

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
30	その他1~4号機サブドレン (ディーブウェル含む)(未復旧 ビット)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺 「未復旧」	約15/ビット	【No.47.48】 Cs-134: ND~3.9E1 Cs-137: 4.8E1~9.6E1 全β: 7.9E1~2.8E2 H-3: ND (2014.11.10)	
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1~4号タービン建屋海側	約4,200 (2018.12.17)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 1.3E2 1.7E2 Cs-137: 3.1E3 4.7E3 全β: 3.8E3 5.3E3 H-3: ND (2021.11.8) (2021.12.13)	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2~4号機タービン建屋海側	約3,600 (2018.12.14)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 3.5E1 3.4E1 Cs-137: 9.9E2 9.9E2 全β: 1.2E3 1.3E3 H-3: ND (2021.11.8) (2021.12.13)	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3~4号機タービン建屋海側	約1,600 (2018.12.17)	Cs-134: 1.1E1 1.2E1 Cs-137: 4.2E2 5.1E2 全β: 5.3E2 5.2E2 H-3: ND (2021.10.6) (2021.11.10)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs-134: 7.2E0 Cs-137: 2.3E1 I-131: ND Co-60: ND 全γ放射能: 3.1E1 全β放射能: - (2014.5.23)	
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1040 (2021.9.27)	Cs-134: ND ND Cs-137: ND ND Co-60: 1.4E2 1.2E2 (2021.10.13) (2021.11.12)	プラント保有水を貯留
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1620 (2021.9.27)	Cs-134: ND ND Cs-137: ND ND Co-60: 1.2E1 ND (2021.10.15) (2021.11.11)	プラント保有水を貯留
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機ストームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5~6号機周辺	約1~1,900 (2015.10~2016.1)	Cs-134: ND~2.2E2 Cs-137: ND~9.9E2 (2015.10~2016.1)	
39	5. 6号機サブドレン	・5.6号機サブドレンビット	5~6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ビット	Cs-134: ND Cs-137: ND~3.5 全β: ND~4.8 H-3: ND~140 (採水期間: 2017.10~2018.3) <各ビット混合水> Cs-134: ND Cs-137: 4.3E-1 全β: ND H-3: 4.0E0 (2020.1.28)	
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ビット	Cs-134: 1.0E+1 Cs-137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)	
41	SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2,800 (2015.3.25時点)	Cs-134: 8.0E+4 Cs-137: 1.6E+5 Co-60: 6.5E+2 (2013.8.27)	プラント保有水等を貯留
42	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等各建屋周 辺	約15/ビット	Cs-134: ND ND Cs-137: ND~7.9E1 ND~4.2E1 (2021.11.10) (2021.12.15)	
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs-134: 2.1 Cs-137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留

汚染水等構内溜まり水の状況（2021.12.16時点）

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5～6号機	約8,900 (2021.9時点) 約9,300 (2021.12時点)	【5号機】 Cs-134: ND ND Cs-137: ND 7.7E-1 全β: ND H-3: ND ND (2021.10.14) (2021.11.11) 【6号機】 Cs-134: ND ND Cs-137: 2.5E0 2.5E0 全β: ND ND H-3: ND ND (2021.10.15) (2021.11.12)	
46	排気筒ドレンサンプビット	・1/2号排気筒ドレンサンプビット	1～4号機周辺	約0.3※ <small>※適宜溜まり水の移送を実施</small>	Cs-134: 1.2E5 5.7E4 Cs-137: 3.8E6 1.8E6 全β: 3.9E6 2.1E6 (2021.9.28) (2021.10.29)	2019.10.12以降、水位低下傾向が確認された。 (2019.11.27)
		・3/4号排気筒ドレンサンプビット	1～4号機周辺	約2	Cs-134: 9.5E1 Cs-137: 1.8E3 全β: 2.3E3 (2020.12.23)	
		・5/6号排気筒ドレンサンプビット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	Cs-134: ND Cs-137: 1.3E1 全β: 1.2E1 (2021.2.18)	
		・集中RW排気筒ドレンサンプビット	1～4号機周辺	約10	Cs-134: ND Cs-137: 2.2E2 全β: 2.7E2 (2020.5.20)	
47	固体廃棄物貯蔵庫(6～8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6～8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6～8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)	
49	5号R/B西側ヤードドラム缶	ステンレス製ドラム缶(内袋付)	5号R/B西側ヤード (水素ガストレーラーエリア)	約10 (2021.10) 0 (2021.12.10)	Cs-134: ND Cs-137: 1.4E+1 Sr-90: ND H-3: ND 全β: 1.1E+01 Co-60: ND (2019.5.29)	

各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

最終更新：2020/2/8
東京電力ホールディングス株式会社

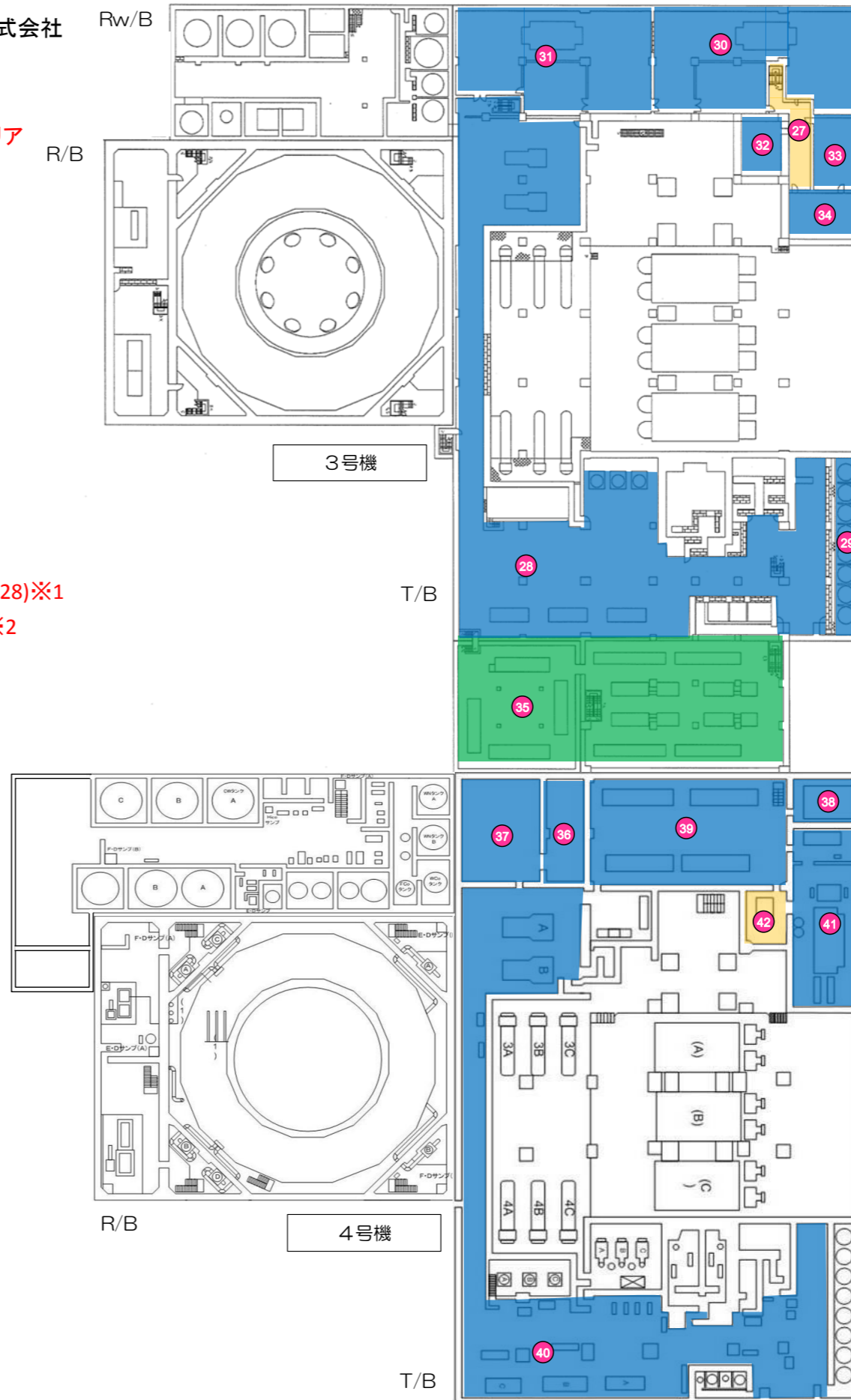
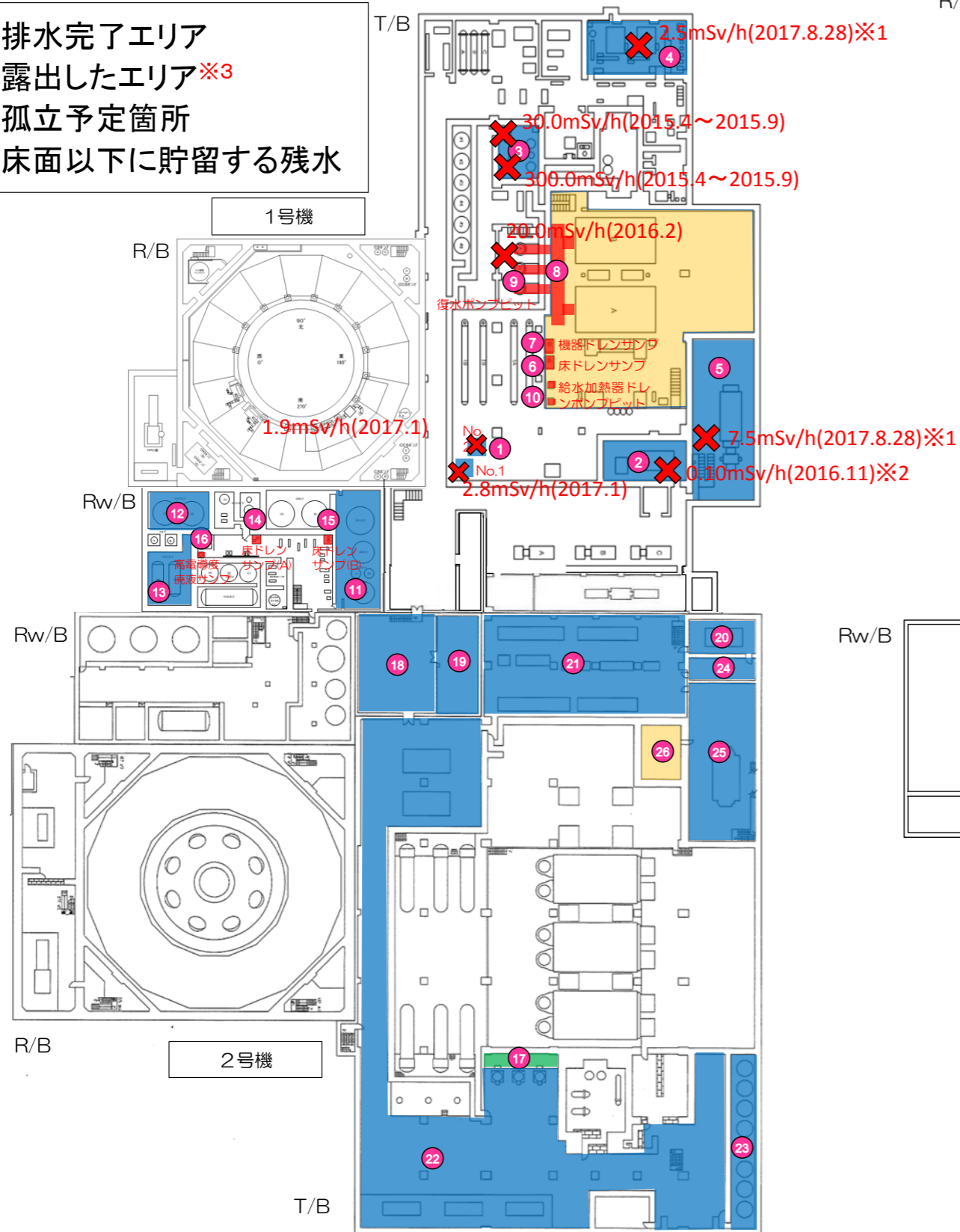
水位安定エリア等については線量測定が実施出来た場合、測定結果を記載している。

※1: 1階床面より3m程度挿入した箇所にて測定

※2: 作業エリアである1階床面で測定

※3: 孤立すると予想したエリアだが連通が確認されたため、建屋に滞留する滞留水のまま判断したエリア

- : 排水完了エリア
- : 露出したエリア※3
- : 孤立予定箇所
- : 床面以下に滞留する残水



福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

東京電力ホールディングス株式会社
2022年1月7日

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 12}	管理方法		主要 核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
Ⅲ ^{※13} 第1編 39条 第2編 87条の2	瓦礫類	・地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 ・フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） ・設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） ・設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） ・工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） ・回収した土壌	屋外	・屋外集積（～0.1mSv/h）	226,700 m ³ [+600 m ³]	278,000 m ³ (299,000 m ³)	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	Cs-137 Cs-134 等 ^{※7}	
				・シート養生（～1mSv/h）	42,300 m ³ [+400 m ³]	77,400 m ³ (77,400 m ³)	・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	週1回		
				・覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	17,300 m ³ [-100 m ³]	18,500 m ³ (18,500 m ³)	・空間線量率を測定し表示	週1回		
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	26,300 m ³ [+200 m ³]	39,600 m ³ (64,700 m ³)	・空気中の放射性物質濃度を測定	6ヶ月に1回 ^{※2}		
				瓦礫類の合計		312,500 m ³ [+1,100 m ³]	413,400 m ³ (459,500 m ³)	・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）		週1回
	使用済保護衣等	・タイバック ・下着類 ・ゴム手袋 ・その他保護衣、保護具	屋外	・容器収納	28,900 m ³ [-1,400 m ³]	52,500 m ³ (58,700 m ³)	・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回 ^{※3}		
			建屋	・袋詰め						
	伐採木	・枝葉根	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m ³ [0 m ³]	41,600 m ³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回 ^{※3}		
				・屋外集積	800 m ³ [微増 m ³]	6,000 m ³	・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認	月1回		
		・幹根	102,700 m ³ [0 m ³]	128,000 m ³						
		—		伐採木の合計		140,800 m ³ [微増 m ³]	175,600 m ³ (175,600 m ³)	—		
	Ⅲ 第1編 40条 第2編 87条の3	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	凝集沈殿物	廃スラッジ貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	440 m ³ [-1 m ³]	700 m ³	・免震重要棟にて液位を監視し、漏えいの有無を監視		常時
				使用済セシウム吸着塔一時保管施設	・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	3,898 本 [+13 本]	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画		—
・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）					・空間線量率を測定し表示	—				
・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約1.2mSv/h）			380 本 [0 本]		584 本	・巡視を行い、コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—			
・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）										
・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）			975 本 [+1 本]		1,596 本	・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回			
・容器収納【モバイル型Sr除去装置】（最大約0.5mSv/h）										
フィルタ			屋外	・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—		
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【サブドレン他浄化装置】 ・容器収納【雨水処理設備等】（1mSv/h未満）						
RO装置のフィルタ類			屋外	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—		
樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—				
		・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）								

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 11, 12}	管理方法		主要 核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
Ⅲ 第1編 38条 第2編 87条	放射性固 体廃棄物 等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物	固体廃棄 物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661 本	ドラム缶 (約318,500 本相当)	・巡視による保管状況の確認及び保管量 の確認	月1回	Co-60 等	
				・その他	ドラム缶 10,155 本					
		・震災後に発生した放射性固体廃棄物 (焼却灰等)	・ドラム缶収納	2,587 本 [+32 本]						
		・使用済制御棒等	サイトバ ンカ	・水中保管	12,125 本 193 m ³ ^{※4}	—		・事故前の保管量の推定値により確認		3ヶ月に1 回
								・プール水位の確認		月1回
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,543 m ³ ^{※5}	—		・貯蔵量の確認 ^{※8}		3ヶ月に1 回
・貯蔵状況の確認 ^{※8}	タンクに より異な る									
・使用済制御棒等	使用済燃 料プール	・水中貯蔵	11,422 本 ^{※6}	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回				
					・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1 回				
— ^{※10}	瓦礫等 ^{※13}	・回収した土壌	—	18,500 m ³ [-100 m ³]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等			
		・回収した土壌以外の瓦礫等	屋外	—				55,000 m ³ [-400 m ³]		
			建屋	—				1,000 m ³ [微減 m ³]		
	水処理二 次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	—	200 m ³ [0 m ³]				Cs-137 Cs-134 Sr-90等		
仮設集積の合計			—	74,600 m ³ [-600 m ³]						

※1 瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）は2021年11月30日現在、水処理二次廃棄物は2021年12月2日現在の保管量及び保管容量である。尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に（ ）で記載している保管容量は、実施計画（2021年11月11日認可）に記載している保管容量である。

※2 屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。

※3 6月～9月は、1週間に3回。

※4 2021年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他（シュラウド切断片等）：193m³。

※5 2021年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,395m³、造粒固化体：1,148m³。

※6 2021年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。

※7 廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14（半減期：約5.7×10³年）、Ni-63（半減期：約1.0×10²年）、Se-79（半減期：約1.1×10⁶年）、Tc-99（半減期：約2.1×10⁵年）、I-129（半減期：約1.6×10⁷年）等が検出されているものがある。

※8 1～4号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。

※9 アンダーラインの実施内容は、実施計画（2021年11月11日認可）に未記載。

※10 仮設集積しているのは、伐採木、土壌、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。

※11 []は、当該の報告とその前月との差を示している。

※12 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

※13 瓦礫等の記載については、廃棄物管理の適正化の検討を踏まえて、今後見直す。

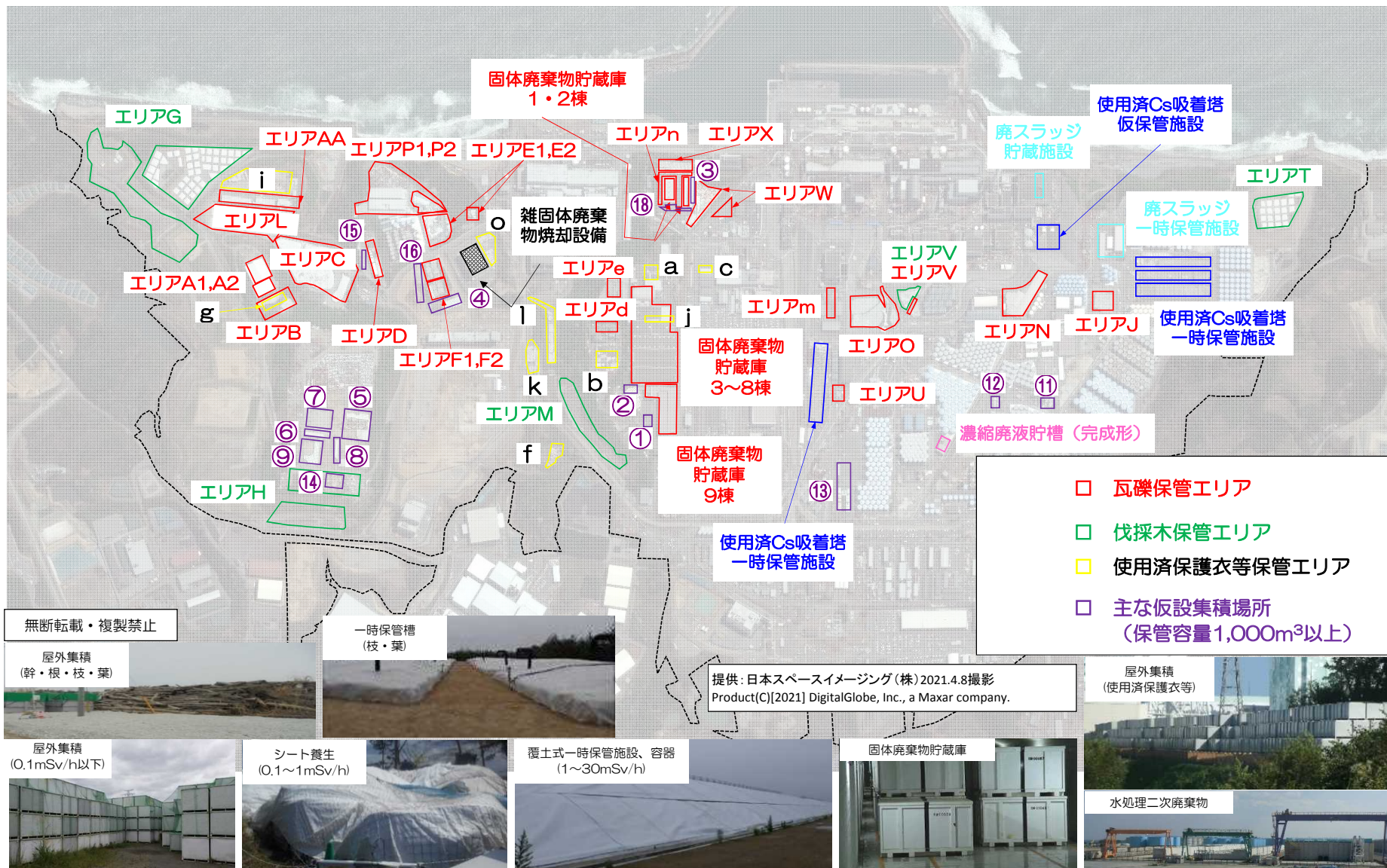
ガレキの保管量の現状※1, 2, 3

保管形態	受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア 名称	保管容量※7	保管量	前回比	保管容量合計※7	保管量合計	2021年度末 想定保管量※4
屋外集積 (~0.1mSv/h)	≦0.001	AA	36,400 m ³	19,700 m ³	+400 m ³	278,000 m ³	226,700 m ³	262,200 m ³
	≦0.005	A2	9,500 m ³	— m ³ ※5	— m ³ ※5			
		J	8,000 m ³	6,200 m ³	0 m ³			
	≦0.01	A1	4,300 m ³	— m ³ ※5	— m ³ ※5			
		B	5,300 m ³	5,300 m ³	0 m ³			
		C	31,000 m ³	31,000 m ³	0 m ³			
	≦0.025	C	35,000 m ³	34,100 m ³	+200 m ³			
	≦0.028	U	800 m ³	700 m ³	0 m ³			
	≦0.1	C	1,000 m ³	1,000 m ³	0 m ³			
		F2	7,500 m ³	6,400 m ³	0 m ³			
		N	10,000 m ³	9,600 m ³	0 m ³			
		O	51,400 m ³	44,000 m ³	0 m ³			
		P1	64,000 m ³	62,600 m ³	0 m ³			
		V	6,000 m ³	6,000 m ³	0 m ³			
d		1,200 m ³	0 m ³	0 m ³				
e	6,700 m ³	0 m ³	0 m ³					
シート養生 (~1mSv/h)	≦0.3	D	4,500 m ³	2,600 m ³	0 m ³	77,400 m ³	42,300 m ³	73,700 m ³
	≦1	E1	16,000 m ³	14,800 m ³	0 m ³			
		P2	9,000 m ³	5,900 m ³	0 m ³			
		W1	23,000 m ³	9,600 m ³	+100 m ³			
		W2	6,300 m ³	0 m ³	0 m ³			
		X	12,200 m ³	6,200 m ³	0 m ³			
		m	3,100 m ³	300 m ³	+300 m ³			
n	3,300 m ³	2,900 m ³	0 m ³					
覆土式一時保管施設、容器収納 (1mSv/h~30mSv/h)	≦10	F1	700 m ³	600 m ³	0 m ³	18,500 m ³	17,300 m ³	33,000 m ³
		E2	1,800 m ³	600 m ³	-100 m ³			
	≦30	L	16,000 m ³	16,000 m ³	0 m ³			

仮設集積の管理状況※1, 2

分類	場所	保管容量	保管量	前回比
仮設集積※6	①	3,000 m ³	2,800 m ³	+600 m ³
	②	3,000 m ³	3,000 m ³	0 m ³
	③	2,000 m ³	1,800 m ³	0 m ³
	④	12,000 m ³	9,200 m ³	+900 m ³
	⑤	14,000 m ³	13,800 m ³	0 m ³
	⑥	4,000 m ³	2,000 m ³	+200 m ³
	⑦	9,000 m ³	5,900 m ³	+800 m ³
	⑧	4,500 m ³	3,500 m ³	0 m ³
	⑨	1,500 m ³	1,500 m ³	0 m ³
	⑩			
	⑪	2,400 m ³	1,200 m ³	0 m ³
	⑫	1,800 m ³	1,800 m ³	0 m ³
	⑬	2,200 m ³	1,200 m ³	0 m ³
	⑭	2,200 m ³	2,200 m ³	0 m ³
	⑮	2,000 m ³	2,000 m ³	0 m ³
	⑯	5,600 m ³	2,800 m ³	0 m ³
	⑰			
	⑱	1,100 m ³	900 m ³	0 m ³

- ※1 瓦礫類、仮設集積物は2021年11月30日現在の保管量及び保管容量である。保管容量は運用上の上限を示している。
- ※2 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。
- ※3 各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。
- ※4 瓦礫類の想定保管量は、実施計画（2021年11月11日認可）の予測値を示している。
- ※5 エリアA1及びA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「-」と記載。
- ※6 保管容量が1,000m³以上の仮設集積場所について記載。
- ※7 瓦礫等の記載については、廃棄物管理の適正化の検討を踏まえて、今後見直す。



2022年1月7日
東京電力ホールディングス株式会社

2021年12月末時点での今後の電源計画について（定期報告）

主な負荷の接続状況ならびに移設（増設）計画について報告します。

1. 今回追加した新規計画

- (1) ALPS処理水希釈放出設備
⇒新設に伴う変更
- (2) 1号機原子炉建屋大型カバー
⇒新設に伴う変更
- (3) 3号機原子炉格納容器内取水設備
⇒新設に伴う変更
- (4) 固体廃棄物貯蔵庫10棟
⇒新設に伴う変更

2. 前回（2021年4月）までに説明済みの計画

- (5) 油処理装置
⇒新設に伴う変更
- (6) 放射性物質分析・研究施設第1棟
⇒新設に伴う変更
- (7) 放射性物質分析・研究施設第2棟
⇒新設に伴う変更
- (8) 大型廃棄物保管庫
⇒新設に伴う変更
- (9) 減容処理設備
⇒新設に伴う変更
- (10) 2号機 燃料取扱設備
⇒新設に伴う変更
- (11) スラリー安定化処理設備
⇒新設に伴う変更

3. 添付資料

- (1) 2021年12月末時点での今後の計画
- (2) 2021年12月末時点での電源構成

2021年12月末時点での今後の計画 (A系電源)

所内高圧母線	所内共通P/C 又は 主な変圧器盤	接続する主な負荷		供給対象			電源設計			備考	
				所内 共通 D/G 供給	電源車 供給	機器付 D/G供給	区分	負荷への電源 供給形態	設備多重性		
所内共通 M/C1A	(1)	多核種除去設備 変圧器盤A	放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	多核種除去設備 A系、C系/共通系	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
			使用済燃料乾式キャスク仮保管設備	キャスク仮保管設備	-	-	-	II-2	切替	単一	
		所内共通P/C1A	ALPS処理水希釈放出設備			-	-	-	I-1	二重化	二重化
所内共通 M/C3A	(2)	汚染水処理設備等	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	◎※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
			サブドレン他水処理施設	地下水ドレン前処理装置	-	-	-	II-2	切替	単一	
			放水路浄化設備	放水路浄化装置	-	-	-	II-2	切替	単一	
		所内共通P/C3A	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	1号機 燃料取り出し用 カバー A		-	-	-	I-1	二重化	二重化
	所内共通P/C3A、3C	1/2号機 建屋内照明			◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
	所内共通P/C3C	汚染水処理設備等	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	◎※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
		1/2号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)			◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	2号機 タービン建屋内炉注水ポンプ		◎	◎	-	I-2	単一	多様化	
			1/2号機 CST炉注水ポンプ A		◎	◎	-	I-1	二重化	二重化	
		原子炉格納容器ガス管理設備	1/2号機 原子炉格納容器ガス管理設備 A		○	-	-	I-1	二重化	二重化	
原子炉圧力容器・格納容器注水設備		1号機 タービン建屋内炉注水ポンプ		◎	◎	-	I-2	単一	多様化		
プロセス建屋 常用M/C	プロセス水処理P/C(A)他	汚染水処理設備等	除染装置(12)、セシウム吸着装置(12)、第三セシウム吸着装置(12)、造粒固化体貯槽(III)	◎※2	-	-	I-2	単一	多様化	()内は区分	
-	油処理装置	(5)	油処理装置	-	-	-	III	単一	単一		
所内共通 M/C4A	所内共通P/C4A	汚染水処理設備等	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	◎※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
		所内共通P/C4A、4C	3/4号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
	所内共通P/C4C	汚染水処理設備等	汚染水処理設備等	滞留水移送装置、逆浸透膜装置	◎※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
			(3)	3号機原子炉格納容器内取水設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
		3/4号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)			◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	3号機 タービン建屋内炉注水ポンプ		◎	◎	-	I-2	単一	多様化	
			3号機 CST炉注水ポンプ A		◎	◎	-	I-1	二重化	二重化	
		原子炉格納容器ガス管理設備	3号機 原子炉格納容器ガス管理設備 A		○	-	-	I-1	二重化	二重化	
	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	4号機 燃料取り出し用 カバー A		-	-	-	I-1	二重化	二重化		
	4号機 燃料取扱設備 受電設備	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	4号機 燃料取扱設備		-	-	-	III	単一	単一	燃料取扱設備は、「高い安全機能」であるがフェイルセーフ設計のため電源供給機能は「安全機能」となる
所内共通 M/C5A	免震重要棟受電設備	監視室・制御室	免震重要棟		○	○	I-1	二重化	二重化	免震棟は非常用ガスタービン発電機があるため電源車供給対象外 D/G負荷はCVCF	
	サブドレン浄化設備高圧変圧器盤 A	サブドレン他水処理施設	サブドレン他水浄化設備		-	-	-	I-1	二重化	二重化	
	高性能多核種除去設備変圧器盤A	放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	増設多核種除去設備		-	-	-	I-1	二重化	二重化	
		放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	高性能多核種除去設備		-	-	-	I-1	二重化	二重化	
	所内共通5系配電盤A	原子炉格納容器内窒素封入設備	窒素ガス分離装置 A/B		○	-	○	I-1	二重化	二重化	
			窒素ガス分離装置 C		○	-	-	I-1	二重化	二重化	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	常用高台炉注水ポンプ		◎	◎	-	I-2	単一	多様化	
		使用済燃料プール設備	非常用注水設備(電動ポンプ)		○	○※2	-	I-2	単一	多様化※1	※1: 消防車との多様性
所内共通 M/C6A	凍結プラントP/C A系	滞留水を貯留している(滞留している場合を含む) 建屋	凍土速水壁設備		-	-	-	I-1 (I-2)	二重化 (単一)	二重化 (多様化)	()内は凍土初期造成時
	凍結プラントP/C A-2	放射線管理関係設備等	モニタリングポスト(予備側)		○	-	-	II-2	切替	単一	
	SFP循環冷却設備配電盤A系	使用済燃料プール設備	1~3号機 使用済燃料プール冷却系		○	-	○	I-1	二重化	二重化	
所内共通 M/C7A	(6)	放射性物質分析・研究施設第1棟	放射性物質分析・研究施設第1棟		-	-	-	II-2	切替	単一	
	(7)	放射性物質分析・研究施設第2棟	放射性物質分析・研究施設第2棟		-	-	-	II-2	切替	単一	
	(9)	構内配電線(減容処理設備)			-	-	-	III	単一	単一	
所内共通 D/G(A)M/C	所内共通D/G(A)P/C	所内共通D/G(A)補機			○	-	-	I-1	二重化	二重化	
	使用済燃料共用プール設備	共用プール補給水系			○	○※2	-	I-1	二重化	二重化	
共用プール M/C A	共用プールP/C A	使用済燃料共用プール設備	共用プール冷却浄化系		○	-	-	I-1	二重化	二重化	
	3号機 原子炉カバー用変圧器盤3A	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	3号機 燃料取り出し用 カバー A		-	-	-	I-1	二重化	二重化	
-	(10)	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	2号機 燃料取扱設備		-	-	-	I-1	二重化	二重化	
予備変M/C	構内配電線	モニタリングポスト予備等			○	-	-	I-2	切替	多様化	D/G負荷はMP予備

(注)
 ◎は重要度の特に高い安全機能や監視機能を有する設備として供給するもの、○は◎以外で供給する設備(※2は運用上重要な設備と判断し供給対象とした)。
 ・各設備のうち運転に必要な系統や機器に対して供給するため、◎又は○はすべての機器に同時に供給するものではない。
 ・D/G供給時、電源車供給時は一部負荷を制限する。

 : 今回追加した新規計画
 : 前回(2021年4月)までに説明済みの計画

2021年12月末時点での今後の計画 (B系電源)

所内高圧母線	所内共通P/C 又は 主な変圧器盤	接続する主な負荷		供給対象			電源設計			備考		
				所内 共通 D/G 供給	電 車 供 給	機 器 付 D/G 供 給	区 分	負 荷 への 電 源 供 給 形 態	設 備 多 重 性			
所内共通 M/C1B	(1) 所内共通P/C1B	放射能液体廃棄物処理施設及び関連施設	多核種除去設備 B系、C系/共通系	-	-	-	I-1	二重化	二重化			
		使用済燃料乾式キャスク保管設備	キャスク保管設備	-	-	-	II-2	切替	単一			
所内共通 M/C3B	(2) 所内共通P/C3B	1/2号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化			
		汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化			
		サブドレン他水処理施設	地下水ドレン前処理装置	-	-	-	II-2	切替	単一			
		放水路浄化設備	放水路浄化装置	-	-	-	II-2	切替	単一			
		使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	1号機 燃料取り出し用 カバー B	-	-	-	I-1	二重化	二重化			
	所内共通P/C3D	原子炉圧力容器・格納容器注水設備	1/2号機 CST炉注水ポンプ B	◎	◎	-	I-1	二重化	二重化			
		原子炉格納容器ガス管理設備	1/2号機 原子炉格納容器ガス管理設備 B	○	-	-	I-1	二重化	二重化			
		1/2号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化			
		汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化			
		プロセス建屋 設備M/C	第二セシウム吸着設備変 圧器盤	汚染水処理設備等	第二セシウム吸着装置	○ ※2	-	-	I-2	単一	多様化	
所内共通 M/C4B	所内共通P/C4B	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化			
		3/4号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化			
所内共通 M/C4D	所内共通P/C4D	汚染水処理設備等	滞留水移送装置、逆浸透膜装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化			
		3/4号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化			
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	3号機 CST炉注水ポンプ B	◎	◎	-	I-1	二重化	二重化			
		原子炉格納容器ガス管理設備	3号機 原子炉格納容器ガス管理設備 B	○	-	-	I-1	二重化	二重化			
		使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	4号機 燃料取り出し用カバー B	-	-	-	I-1	二重化	二重化			
所内 共通 M/C 2 B	所内共通 M/C5B	免費重要棟変電設備	監視室・制御室	○	-	-	I-1	二重化	二重化	免費棟は非常用ガスタービン発電機があるため電源車供給対象外 D/G負荷はCVCF		
		サブドレン浄化設備高圧変 圧器盤 B	サブドレン他水処理施設	サブドレン他浄化設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化		
		高性能多核種除去設備変 圧器盤B	放射能液体廃棄物処理施設及び関連施設	増設多核種除去設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化		
		所内共通S系配電盤B	原子炉格納容器内窒素封入設備	窒素ガス分離装置 A/B	○	-	○	I-1	二重化	二重化		
			窒素ガス分離装置 C	○	-	-	I-1	二重化	二重化			
			原子炉圧力容器・格納容器注水設備	常用高台炉注水ポンプ	◎	◎	-	I-2	単一	多様化		
			純水タンク脇炉注水ポンプ	◎	◎	○	I-2	単一	多様化			
		使用済燃料プール設備	非常用注水設備(電動ポンプ)	○	◎ ※2	-	I-2	単一	多様化※1	※1: 潤滑油との多様性		
		所内共通 M/C6B	所内共通 M/C6B	凍結プラントP/C B系	滞留水を貯留している(貯留している場合を含む) 建屋	-	-	-	I-1 (I-2)	二重化 (単一)	二重化 (多様化)	()内は凍土初期造成時
				凍結プラントP/C B-2	放射線管理関係設備等	モニタリングポスト	○	-	-	II-2	切替	単一
SFP循環冷却設備配電盤系	使用済燃料プール設備			1〜3号機 使用済燃料プール冷却系	○	-	○	I-1	二重化	二重化		
所内共通 M/C7B	-	大型機器除染設備	大型機器除染設備	-	-	-	III	単一	単一			
		(6) 放射能物質分析・研究施設第1棟	放射能物質分析・研究施設第1棟	-	-	-	II-2	切替	単一			
		(7) 放射能物質分析・研究施設第2棟	放射能物質分析・研究施設第2棟	-	-	-	II-2	切替	単一			
		(8) 構内配電線(大型廃棄物保管庫)		-	-	-	III	単一	単一			
所内共通 D/G(B)M/C	所内共通D/G(B)P/C	所内共通D/G(B)補機		○	-	-	I-1	二重化	二重化			
		使用済燃料共用プール設備	共用プール補給水系	○	◎ ※2	-	I-1	二重化	二重化			
共用プール M/C B	共用プールP/C B	使用済燃料共用プール設備	共用プール冷却浄化系	○	-	-	I-1	二重化	二重化			
		3号機 原子炉カバー用変 圧器盤3B	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	3号機 燃料取り出し用 カバー B	-	-	-	I-1	二重化	二重化		
蒸発濃縮処理設備 M/C	(10) 所内共通P/C	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	2号機 燃料取扱設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化			
		蒸発濃縮処理設備用 変圧器盤 ほか	汚染水処理設備等	蒸発濃縮装置、逆浸透膜装置、シールド中換	○ ※2	-	-	II-2	切替	単一	D/G負荷はシールド中換	
スラッジ貯蔵施設M/C E(N)	(11) 所内共通P/C	スラッジ貯蔵施設P/C E他	汚染水処理設備等	廃スラッジ一時保管施設(1,2)、使用済セシウム吸着塔保管施設(III)	○	-	-	I-2	単一	多様化	D/G負荷は廃スラッジ設備(水素発生排気設備) ()内は区分	
		スラリー安定化処理設備 高圧変圧器盤	スラリー安定化処理設備	多核種除去設備スラリー安定化処理設備	-	-	-	III	単一	単一		

(注)
 ◎は重要度の特に高い安全機能や監視機能を有する設備として供給するもの、○は◎以外で供給する設備(※2は運用上重要な設備と判断し供給対象とした)。
 ・各設備のうち運転に必要な系統や機器に対して供給するため、◎又は○はすべての機器に同時に供給するものではない。
 ・D/G供給時、電源車供給時は一部負荷を制限する。

 : 今回追加した新規計画
 : 前回(2021年4月)までに説明済みの計画

2021年12月末時点の電源構成（A系電源）

所内高圧母線	所内共通P/C 又は 主な変圧器盤	接続する主な負荷	供給対象			電源設計			備考	
			所内 共通 D/G 供給	電源車 供給	機器付 D/G供給	区分	負荷への電源 供給形態	設備多重性		
所内共通 M/C1A	多核種除去設備 変圧器盤A	放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	多核種除去設備 A系、C系/共通系	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
		使用済燃料乾式キャスク保管設備	キャスク保管設備	○	○	○	II-2	切替	単一	
	所内共通P/C3A	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○※2	○	○	I-1	二重化	二重化	
		サブドレン他水処理施設	地下水ドレン前処理装置	○	○	○	II-2	切替	単一	
		放水路浄化設備	放水路浄化装置	○	○	○	II-2	切替	単一	
	所内共通P/C3A、3C	1/2号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
	所内共通 M/C3A	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○※2	○	○	I-1	二重化	二重化	
			1/2号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)	○	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	2号機 タービン建屋内炉注水ポンプ	◎	◎	○	I-2	単一	多様化	
			1/2号機 CST炉注水ポンプ A	◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
原子炉格納容器ガス管理設備			1/2号機 原子炉格納容器ガス管理設備 A	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
原子炉圧力容器・格納容器注水設備	1号機 タービン建屋内炉注水ポンプ	◎	◎	○	I-2	単一	多様化			
プロセス建屋 常用M/C	プロセス水処理P/C(A)他	汚染水処理設備等	除染装置(1,2)、セシウム吸着装置(1,2)、第三セシウム吸着装置(1,2)、造粒固化体貯槽(III)	○※2	○	○	I-2	単一	多様化	()内は区分
所内共通 M/C4A	所内共通P/C4A	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○※2	○	○	I-1	二重化	二重化	
		所内共通P/C4A、4C	3/4号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化
	所内共通P/C4C	汚染水処理設備等	滞留水移送装置、逆浸透膜装置	○※2	○	○	I-1	二重化	二重化	
		3/4号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	3号機 タービン建屋内炉注水ポンプ	◎	◎	○	I-2	単一	多様化	
			3号機 CST炉注水ポンプ A	◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
			原子炉格納容器ガス管理設備	3号機 原子炉格納容器ガス管理設備 A	○	○	○	I-1	二重化	二重化
	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	4号機 燃料取り出し用 カバー A	○	○	○	I-1	二重化	二重化		
	4号機 燃料取扱設備 受電設備	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	4号機 燃料取扱設備	○	○	○	III	単一	単一	燃料取扱設備は、「高い安全機能」であるがフェイルセーフ設計のため電源供給機能は「安全機能」となる
	所内共通 M/C5A	免震重要棟受電設備	監視室・制御室	免震重要棟	○	○	○	I-1	二重化	二重化
サブドレン浄化設備高圧 変圧器盤 A			サブドレン他水処理施設	サブドレン他浄化設備	○	○	○	I-1	二重化	二重化
高性能多核種除去設備 変圧器盤A		放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	増設多核種除去設備	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
		放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	高性能多核種除去設備	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
		原子炉格納容器内窒素封入設備	窒素ガス分離装置 A/B	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
			窒素ガス分離装置 C	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
原子炉圧力容器・格納容器注水設備	常用高台炉注水ポンプ	◎	◎	○	I-2	単一	多様化			
使用済燃料プール設備	非常用注水設備(電動ポンプ)	○	○※2	○	I-2	単一	多様化※1	※1:消防車との多様性		
所内共通 M/C6A	凍結ブランドP/C A系	滞留水を貯留している(滞留している場合を含む)建屋	凍土差水壁設備	○	○	○	I-1 (I-2)	二重化 (単一)	二重化 (多様化)	()内は凍土初期造成時
		凍結ブランドP/C A-2	放射線管理関係設備等	モニタリングポスト(予備側)	○	○	○	II-2	切替	単一
	SFP循環冷却設備配電 盤A系	使用済燃料プール設備	1~3号機 使用済燃料プール冷却系	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
所内共通 D/G(A)M/C	所内共通DG/AP/C	所内共通D/G(A)補機		○	○	○	I-1	二重化	二重化	
		使用済燃料共用プール設備	共用プール補給水系	○	○※2	○	I-1	二重化	二重化	
共用プール M/C A	共用プールP/C A	使用済燃料共用プール設備	共用プール冷却浄化系	○	○	○	I-1	二重化	二重化	
		3号機 原子炉カバー用 変圧器盤3A	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	3号機 燃料取り出し用 カバー A	○	○	○	I-1	二重化	二重化
予備変M/C	—	構内配電線(モニタリングポスト予備等)		○	○	○	I-2	切替	多様化	D/G負荷は1MP予備

(注)
 ◎は重要度の特に高い安全機能や監視機能を有する設備として供給するもの、○は◎以外で供給する設備(※2は運用上重要な設備と判断し供給対象とした)。
 ・各設備のうち運転が必要な系統や機器に対して供給するため、◎又は○はすべての機器に同時に供給するものではない。
 ・D/G供給時、電源車供給時は一部負荷を制限する。

2021年12月末時点の電源構成 (B系電源)

所内高圧母線	所内共通P/C 又は 主な変圧器盤	接続する主な負荷		供給対象			電源設計			備考
				所内 共通 D/G 供給	電源車 供給	機器付 D/G供給	区分	負荷への電源 供給形態	設備多重性	
所内共通 M/C1B	多核種除去設備 変圧器盤B	放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	多核種除去設備 B系、C系/共通系	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
		使用済燃料乾式キャスク仮保管設備	キャスク仮保管設備	-	-	-	II-2	切替	単一	
所内共通 M/C3B	所内共通P/C3B	1/2号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
		サブドレン他水処理施設	地下水ドレン前処理装置	-	-	-	II-2	切替	単一	
	所内共通P/C3D	放水路浄化設備	放水路浄化装置	-	-	-	II-2	切替	単一	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	1/2号機 CST炉注水ポンプ B	◎	◎	-	I-1	二重化	二重化	
		原子炉格納容器ガス管理設備	1/2号機 原子炉格納容器ガス管理設備 B	○	-	-	I-1	二重化	二重化	
プロセス建屋 後備M/C	プロセス水処理P/C(B)	1/2号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
		汚染水処理設備等	第二セシウム吸着装置	○ ※2	-	-	I-2	単一	多様化	
所内共通 M/C4B	所内共通P/C4B	汚染水処理設備等	滞留水移送装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
		3/4号機 建屋内照明		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
	所内共通P/C4D	汚染水処理設備等	滞留水移送装置、逆浸透膜装置	○ ※2	-	-	I-1	二重化	二重化	
		3/4号機 計測用電源(監視計測器通信設備含む)		◎	◎	○	I-1	二重化	二重化	
		原子炉圧力容器・格納容器注水設備	3号機 CST炉注水ポンプ B	◎	◎	-	I-1	二重化	二重化	
		原子炉格納容器ガス管理設備	3号機 原子炉格納容器ガス管理設備 B	○	-	-	I-1	二重化	二重化	
所内共通 M/C5B	所内共通5系配電盤B	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	4号機 燃料取り出し用カバー B	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
		原子炉格納容器内窒素封入設備	窒素ガス分離装置 A/B	○	-	○	I-1	二重化	二重化	
	高性能多核種除去設備 変圧器盤B	放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	増設多核種除去設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
		放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	高性能多核種除去設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
	高圧変圧器盤 B	サブドレン他水処理施設	サブドレン他浄化設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
		放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設	増設多核種除去設備	-	-	-	I-1	二重化	二重化	
所内共通 M/C6B	凍結ブランドP/C B系	滞留水を貯留している(滞留している場合を含む) 建屋	凍土差水壁設備	-	-	-	I-1 (I-2)	二重化 (単一)	二重化 (多様化)	()内は凍土初期造成時
		放射線管理関係設備等	モニタリングポスト	○	-	-	II-2	切替	単一	
	SFP循環冷却設備配電盤B系	使用済燃料プール設備	1~3号機 使用済燃料プール冷却系	○	-	○	I-1	二重化	二重化	
	-	大型機器除染設備	大型機器除染設備	-	-	-	III	単一	単一	
所内共通 D/G(B)M/C	所内共通D/G(B)P/C	所内共通D/G(B)補機		○	-	-	I-1	二重化	二重化	
		使用済燃料共用プール設備	共用プール補給水系	○	○ ※2	-	I-1	二重化	二重化	
共用プール M/C B	共用プールP/C B	使用済燃料共用プール設備	共用プール冷却浄化系	○	-	-	I-1	二重化	二重化	
		3号機 原子炉カバー用 変圧器盤3B	使用済燃料プールからの燃料取り出し設備	3号機 燃料取り出し用 カバー B	-	-	-	I-1	二重化	二重化
蒸発濃縮処理設備 M/C	蒸発濃縮処理設備用 変圧器盤 ほか	汚染水処理設備等	蒸発濃縮装置、逆浸透膜装置、シールド中操	○ ※2	-	-	II-2	切替	単一	D/G負荷はシールド中操
スラッジ貯蔵施設M/C E(N)	スラッジ貯蔵施設P/C E 他	汚染水処理設備等	廃スラッジ一時保管施設(I2)、使用済セシウム吸着塔保管 施設(III)	○	-	-	I-2	単一	多様化	D/G負荷は廃スラッジ設備(水素発生排 気設備 ()内は区分)

(注)
 ◎は重要度の特に高い安全機能や監視機能を有する設備として供給するもの、○は◎以外で供給する設備(※2は運用上重要な設備と判断し供給対象とした)。
 ・各設備のうち運転に必要な系統や機器に対して供給するため、◎又は○はすべての機器に同時に供給するものではない。
 ・D/G供給時、電源車供給時は一部負荷を制限する。

資料7

2021年12月23日チーム会合資料

陸側遮水壁測温管150-7Sの温度上昇について

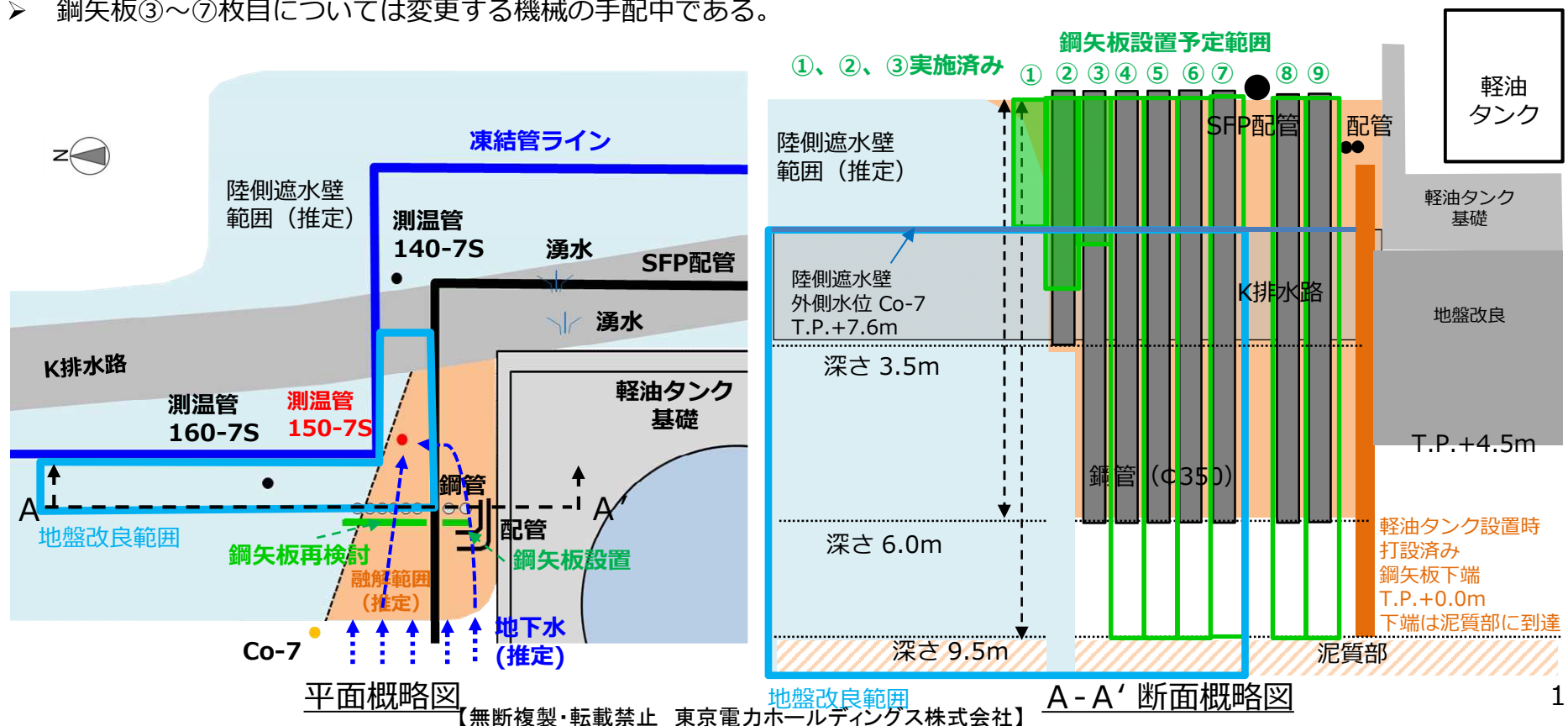
2021年12月23日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

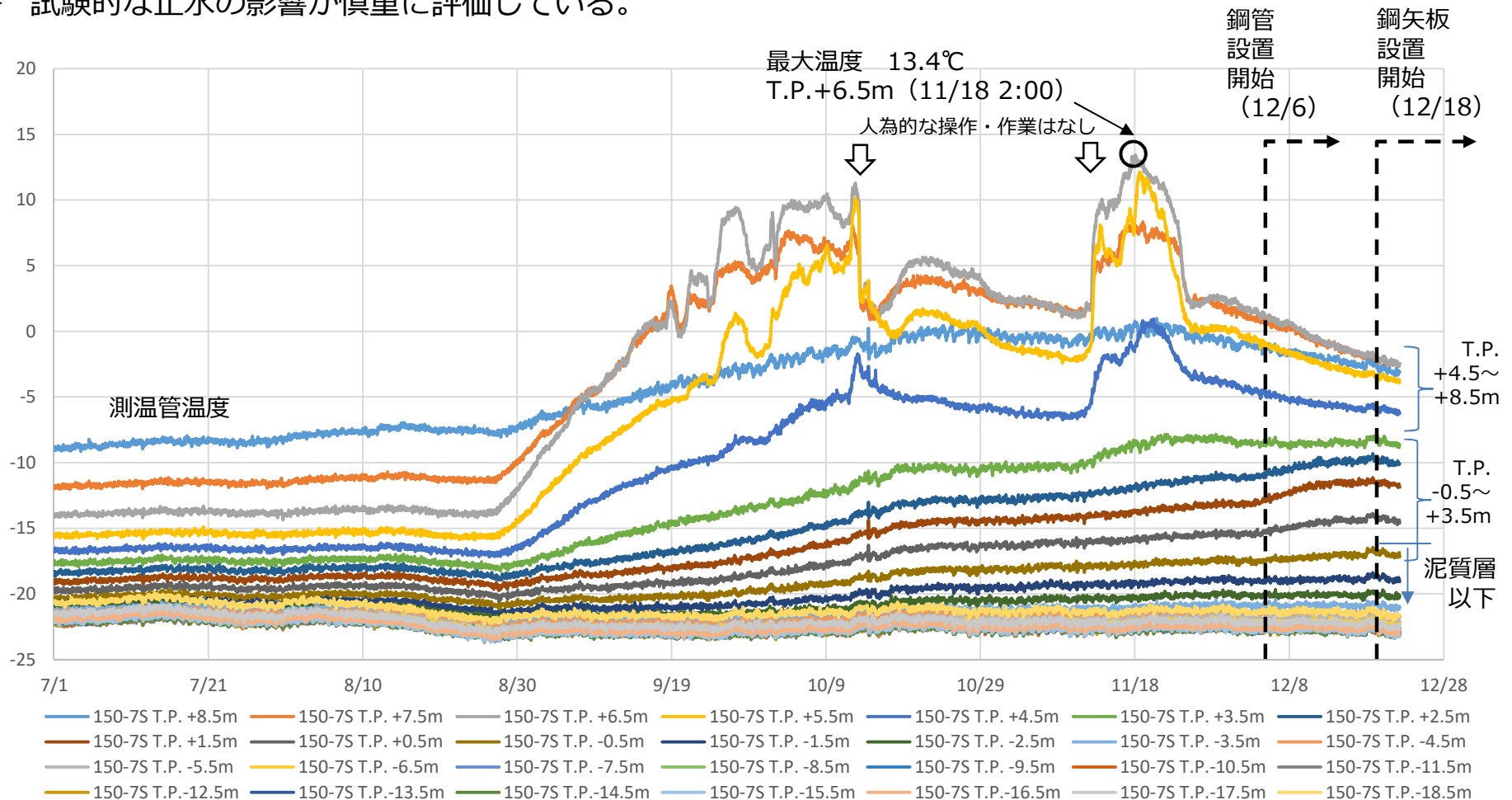
1. 試験的な止水の実施状況について

- 鋼管の設置は12月6日から13日にかけて行い、鋼管設置深度は凍結箇所に着したと判断した北側の1本は3.5mまで、それ以外の8本は当初計画した6.0mまで行った。
- 鋼管設置の効果について、設置前から地中温度の低下傾向が継続し、K排水路内の湧水に明瞭な変化見られなかったことから、追加の止水が必要と判断し、鋼矢板を12月18日から設置している。鋼矢板の設置深度は泥質部まで対象としている。
- 鋼矢板の設置を北側から実施しているが、鋼矢板の③枚目の施工時に硬い土砂に当たり設置深度が2.0mで停止した（詳細P4）。北側の施工には施工機械の変更が必要となるため、南側（⑧、⑨）の鋼矢板の設置を行っている（12月22日現在）。
- 鋼矢板③～⑦枚目については変更する機械の手配中である。



2. 測温管150-7 Sの温度変化

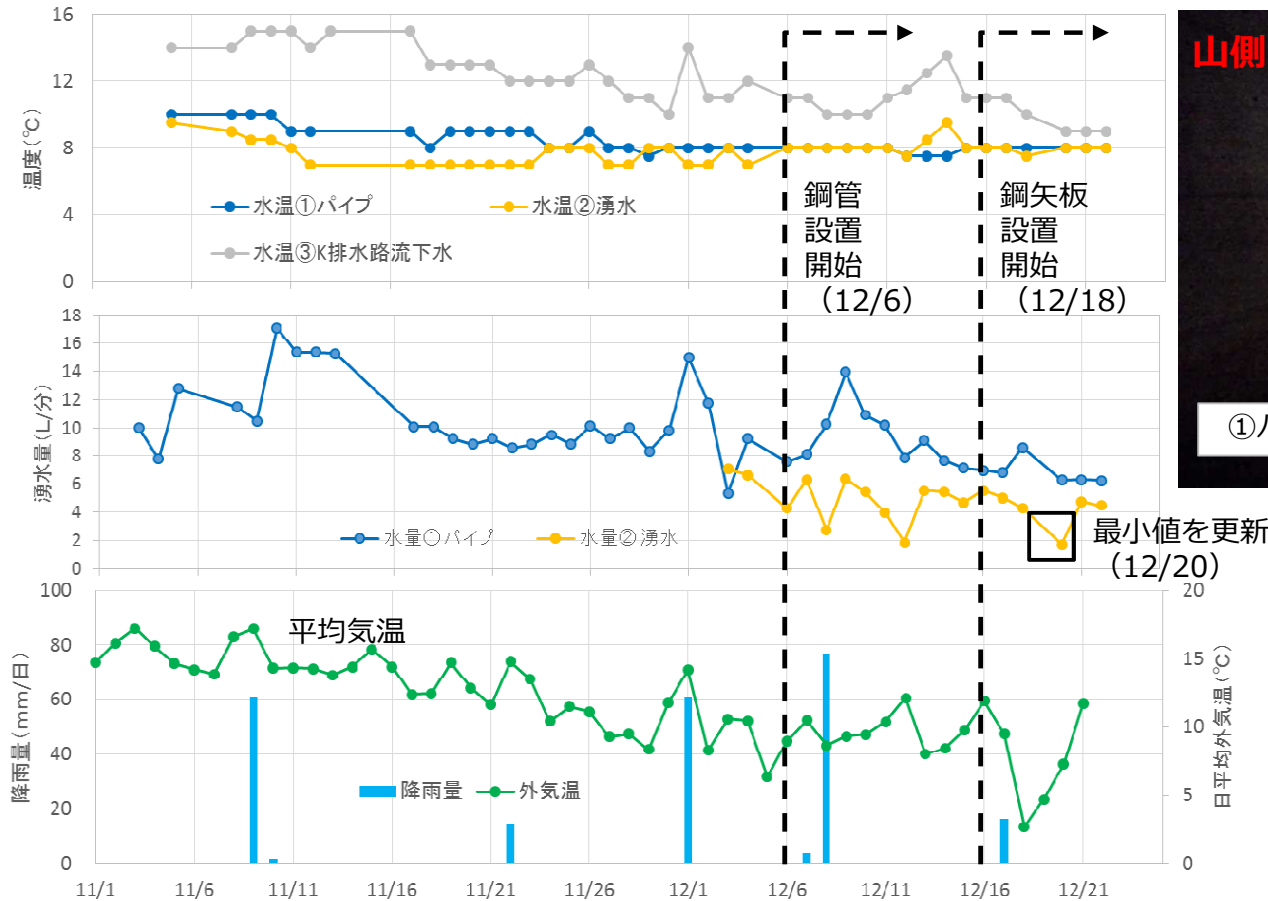
- T.P.+8.5m～T.P.+4.5mまでは鋼管設置前から低下傾向を示し、設置後もその傾向が継続している。
- T.P.+3.5m～T.P.-0.5mまでは鋼管設置前から、地中温度の上昇傾向はみられており、鋼管設置前の12月4日頃から上昇勾配が増加している。その後、横ばいとなり、温度の低下傾向が確認されている。
- 試験的な止水の影響が慎重に評価している。



測温管150-7 S 経時変化 (12/21 17:00時点)

参考 監視項目 K排水路内湧水量および温度測定結果

- K排水路内の湧水の温度に変化は見られていない。
- 湧水量について鋼管設置前後で明瞭な変化は見られていない。
- ②湧水点については鋼矢板設置後の12月20日の測定において過去最低値（1.7 L/分）を計測したが試験的な止水の影響が慎重に評価している



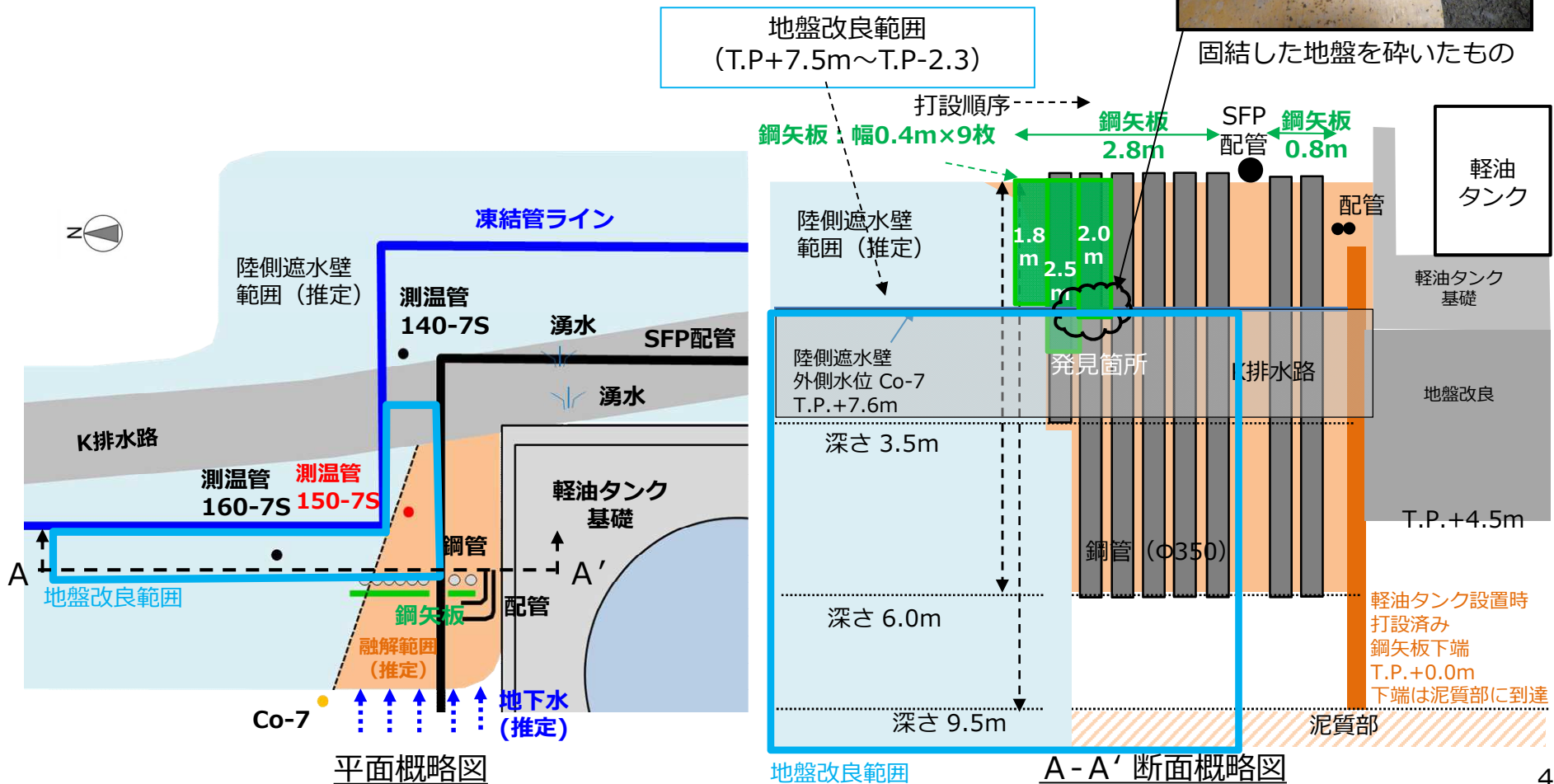
K排水路内湧水量・温度の経時変化 (12/21時点)

参考 地中から見つかった硬い土砂について

- 鋼矢板3枚目の打ち込みが停止した箇所から、セメントによる固結した土砂が確認された。（2016年の凍結開始前後の地盤改良によるものと推定）
- 鋼矢板打ち込み位置は、設計上の地盤改良範囲外に計画していたが、設計よりも薬液が広い範囲に注入されていたと思われる。



固結した地盤を砕いたもの

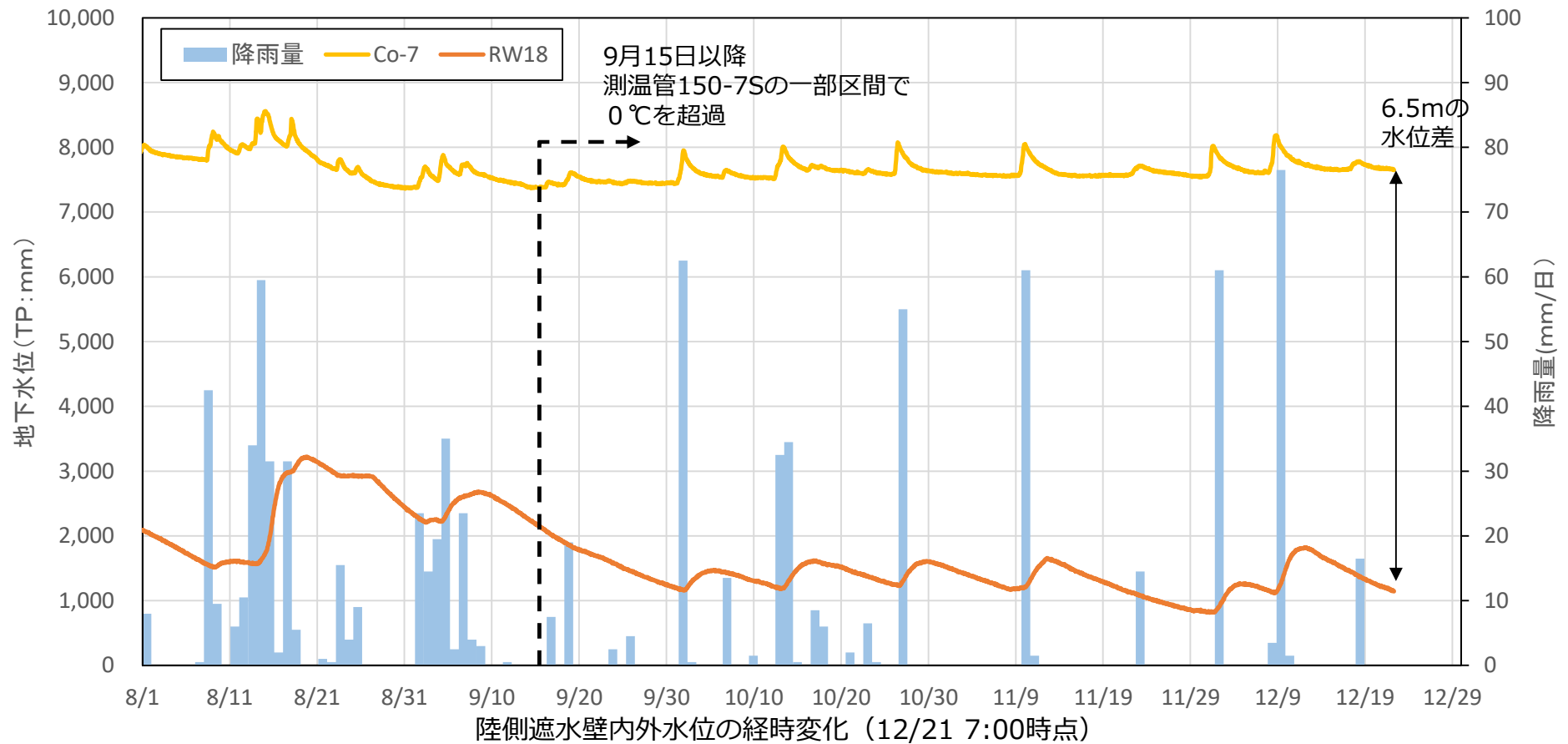


- 止水期間中は下記項目の監視を行いながら、止水効果を確認する。

対象設備	監視項目	監視方法	監視頻度※
測温管 140-7S、150-7S、160-7S	地中温度	計測値	2回/日
観測孔Co-7、RW18	地下水位	計測値	2回/日
No.4、No.5中継タンク	汲上量	計測値	1回/日
K排水路(内部)	外観	現地目視	1回/日
	湧水量 温度 濁り	現地計測	2回/日
調査掘削箇所(内側)	地盤状態	現地目視	1回/日
	地中温度	現地計測	1回/日
軽油タンク基礎・防油堤	外観	現地目視	1回/日
	変位	現地計測	1回/週
共用プール周辺地盤	外観	現地目視	1回/日

参考 陸側遮水壁内外水位差と降雨量の経時変化

- 陸側遮水壁内側の水位は地中温度の変動によらず降雨により一時的に上昇し、サブドレンの汲上により低下する
- 測温管150-7Sの一部で地中温度が0℃以上となった9月15日以降も陸側遮水壁内の水位は低下を継続していた。
- 12月21日現在内外水位差は6.5m確保していることから陸側遮水壁の遮水性は継続して保たれていると評価している。



参考 サブドレンNo.4、No.5中継タンクの汲上量と降雨量の関係

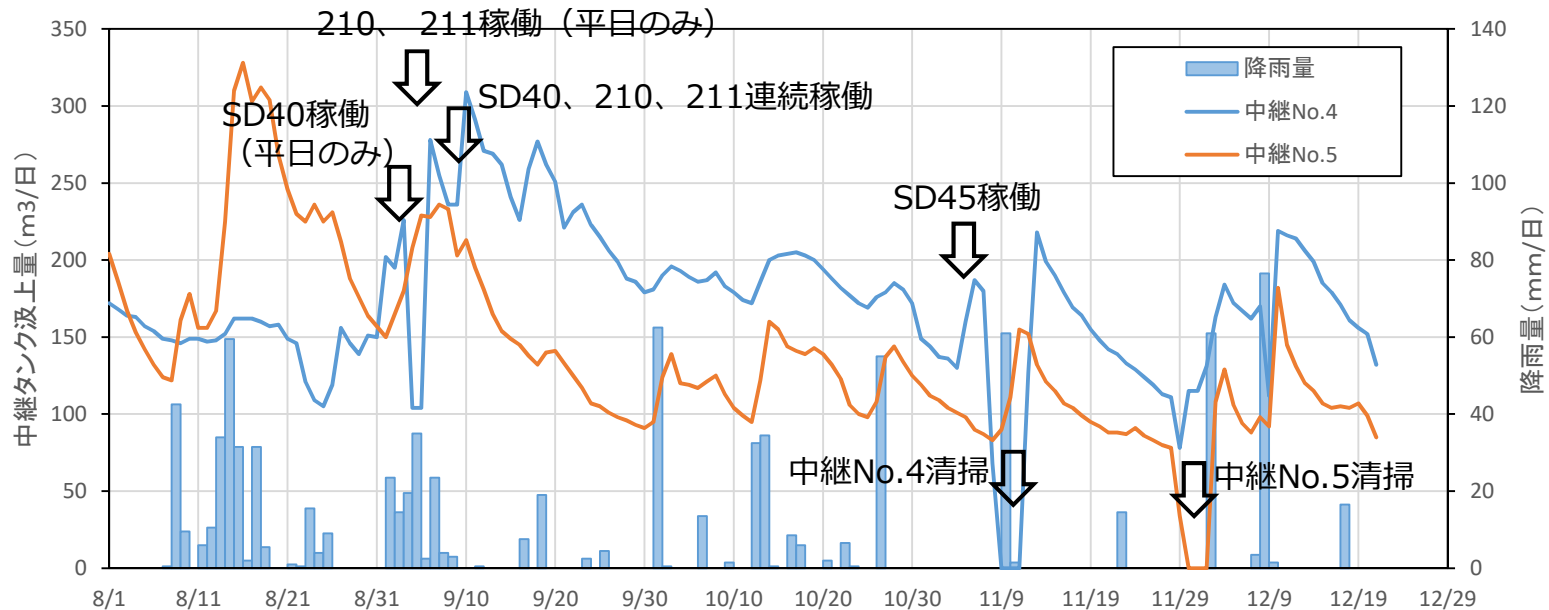


- 温度上昇箇所至近のサブドレン汲上量は降雨量及びSD40等の稼働に伴い変動している。
- 現状では測温管150-7Sの温度上昇に伴い汲上量が上昇していることは明瞭では無い為いたため、陸側遮水壁の遮水性は継続して保たれていると評価しているが、今後も監視を継続する。

汲上量、降雨量は12/20まで



3、4号機山側平面図



参考 監視項目 周辺設備の外観点検

- ▶ 試験的な止水が周辺構造物へ影響を与えている所見は現在確認されていない

	K排水路内部観察 (クラック調査)	軽油タンク堰 (クラック調査)	調査掘削箇所 (外観点検)	共用プール周辺 (外観点検)
12月3日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月4日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月6日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月7日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月8日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月9日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月10日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月11日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月12日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月13日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月14日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月15日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月16日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月17日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月18日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月19日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月20日	新規クラック無し	新規クラック無し	異常なし	異常なし
12月21日				